第 2013-38 号

恵みと真理のニュース

2013 年 11 月の二次　恵みと真理教会
韓国 京畿道 安養市 萬安区 安養 5 洞 458-5 / ☎82-31-443-3731 / www.gntc.net

［証］　神様の恵みで 3 人の 娘全てが教師の夢を叶えました。

私は子供のごろ聖書学校に行って神様を知り信じるようになりました。聖書の御言葉を習う事に他の人よりも興味があり祈りと賛美する事が好きで村の友達と一理の道も歩いて市内の様々な教会に行くのがその当時には私にとっては楽しむ事でした。その教会のなかで倉庫のような建てられた建物の中でこめたわらを敷いて座って礼拝を捧げた教会が特に思い出します。小さい教会なので担任牧師がいなく時々宣教師と復興士など牧師がいらっしゃって説教をしてくださいました。また信仰が良い執事さんが私達にとても熱心に聖書を教えてくれました。
後で母が勧士になって捧げる教会に通いましたが 1977 年に結婚してカチョンに引っ越しをしてから私達の恵みと真理教会アンヤン聖殿で出席して信仰生活を続くようになりました。区域で聖霊に満たされた執事達が多くその方々を見習い当会長牧師が話してくださる説教を通して多くの恵みを受けながら私の信仰がもっと成長しました。
大変なことにあって祈るならば神様がすぐ答えてくださり当会長牧師の説教を通してその問題をに充分担えるように慰めと勇気をくださり解決するように知恵と能力もくださいました。
初信者の頃、まだうちで旦那の親の祭祀を捧げました旦那が平日の礼拝の時当会牧師の申命記の講解説教の御言葉を続けて聴き大きく感動を受け祭祀の変わりに追慕礼拝を捧げると決断しました。
恐ろしい考えもあって大教区長と教区長また区域長を家に招いて共に 追慕礼拝を捧げました。旦那の妹が 8 人全てが当時には不信者でしたのでその日礼拝をささげる事に多くの問題がありました。
難しく礼拝を終えた後牧師が家族みんなを部屋に集めさせて救いの恵みと真理に関する説教してくれました。私もその日の後責任感を持って祈りながら叔妹たちに熱心に福音を伝えました。神様が恵みを与えてくださり一つの家庭二つの家庭救われ始め今は全ての家庭がイエス様を受け入れ捧げる神様の奇跡が私の家で起きました。1985 年不動産仲介士の試験に合格して事業も運営しながら神様は物質の祝福も与えてくださり体が不便で弱い聖徒のため車で奉仕捧げる環境も与えてくださいました。聖霊で満たされ伝道の実りを得るように導いてくださり不信者達を主の前に導き彼らを見守りながら彼らの信仰が成長ことをみる神霊な喜びとやりがいも与えてくださいました。
私がもっと神様に感謝する事は、私の 3 人の娘が自分の願い通り教師になった事です。長女、二番目の娘、末子の娘も任用試験に合格して教師の夢が叶えました。一番と二番目の娘が任用試験を受ける時にはそんなに競争率が高くなかったですが、最近は一浪、二浪は普通で甚だしくは六回目、七回目まで試験を受ける人までいるそうです。
末子も一回失敗を経験して再び試験の準備しました。それで毎日朝早く図書館で一日勉強して夜中 1 時に重いかばんをかけ疲れて肩が落として家に帰ってくる娘がかわいそうでした。区域聖徒と教会で私を知っている全ての方々がまるで自分の子供のように祈ってくださって私と娘も教会の礼拝に休まなく神様に切ない心で祈りました。
教職を通して主の事で力を入れ主を喜ばせる事を念を押しながら神様の助けを求めました。試験の直前には当会牧師に祝福祈りも受けました。
その年に娘は難なく任用試験に合格してポチョンにある小学校で発令され誠実に勤務しています。週末ことに家に帰ってくると疲れているにも関わらず約束通り聖歌隊で頑張って奉仕する姿が私には殊勝です。
娘達みな信仰と人格に足りないなく学校と教会のいろんなどころでイエス様の香りになる事を、もしかしても神様の栄光を隠す事がないように祈ります。どんな苦難があっても“どんな状況でも私はただ主のことだけを頑張ります。だから、主が大変で重い荷物を扱ってくださり、私と私の家族を見守ってください。”祈ったら、主は一度も失望をさせたことなく大きくて驚く愛と権能を与えてくださいました。 魂が恵まれるように、すべての面で恵まれ、健康であるように導いてくださいました。全ての事が感謝することです。
来し方 30 年間全ての家族がひたすら私達の教会で主と教会を仕え頑張って信仰生活するように導いてくださった神様の恵みの祝福です。旦那はカチョン聖殿で教会学校の部長と長老と男性区域長として聖歌隊員で奉仕しながら様々な職分を担えるように健康を与えてくださり時により助ける恵みを与えてくださいます。自分なりの頑張って主の事しますが振り返ってみるといつも心だけで神様の前であまりにも足りなく弱くて恐れ多いです。それにも溢れる祝福と恵みをくださる神様に感謝します。そしていつも相変わらず愛と私達の聖徒を見守ってくださり祈ってくださり祝福ある神様の御言葉で私達の魂を 青草の原に休ませる当会長牧師を主の中で愛し尊敬します。ハレルヤ！

［信仰コラム］　最（もっと）も賢（かしこ）くて立派（りっぱ）な選択（せんたく）

″わたしは、きょう、天と地を呼んであなたがたに対する証人とする。わたしは命と死および祝福とのろいをあなたの前に置いた。あなたは命を選ばなければならない。そうすればあなたとあなたの子孫は生きながらえることができるであろう…″（申命記　30:19、20）

神（かみ）様（さま）は人（ひと）に選択（せんたく）や決定（けってい）を自分（じぶん）が自由（じゆう）にできる自由（じゆう）意志（いし）を与（あた）えました。しかし、選択（せんたく）と決定（けってい）が可能（かのう）な分野（ぶんや）があり、そうでない分野（ぶんや）があります。出生（しゅっしょう）に関連（かんれん）されたように、自分（じぶん）の自由（じゆう）意志（いし）が関与（かんよ）できない状況（じょうきょう）を運命（うんめい）的（てき）なものだと話（はな）しており、このような領域（りょういき）が誰（だれ）にでもあります。それでも自分（じぶん）の自由（じゆう）意志（いし）で選択（せんたく）して決定（けってい）することが及（およ）ぼす影響（えいきょう）と結果（けっか）が非常（ひじょう）に棒（ぼう）します。運命（うんめい）的（てき）なものを変（か）えられるほど多大（ただい）な影響（えいきょう）を及（およ）ぼします。そこで選択（せんたく）し決定（けってい）することを、賢（かしこ）くて立派（りっぱ）にするように努（つと）めなければなりません。
第（だい）一（いち）に、どのような考（かんが）えをするか慎重（しんちょう）に選択（せんたく）しなければなりません。人（ひと）の人となりはその人の、普段の考（ふだん の かんが）えによって形成（けいせい）されます。聖書（せいしょ）は考（かんが）えが及（およ）ぼす影響（えいきょう）と結果（けっか）について強調（きょうちょう）しています。お祈（いの）りは上手（じょうず）、考（かんが）え方（かた）は間違（まちが）う人（ひと）が多（おお）いです。いっそ祈祷（きとう）はちょっと不足（ふそく）しても考（かんが）えを正（ただ）しく持（も）つほうがいいです。心（こころ）は放置（ほうち）しておくと雑草（ざっそう）がぼうぼうとなってしまい庭園（ていえん）と思（おも）います。継続（けいぞく）的（てき）に観察（かんさつ）し、死亡（しぼう）と呪（のろ）いに属（ぞく）した考（かんが）えが浸透（しんとう）したり、根（ね）を下（お）ろすことがないよう処置（しょち）する一方（いっぽう）、生命（せいめい）と福（ふく）に属（ぞく）した考（かんが）えを植（う）えて育（そだ）てなければなりません。お祈（いの）りと賛美（さんび）歌（か）そして聖書（せいしょ）の言葉（ことば）を黙想（もくそう）して暗誦（あんしょう）することと福音（ふくいん）的（てき）な説教（せっきょう）を聞（き）くのは汚染（おせん）された考（かんが）えを除去（じょきょ）することに卓越（たくえつ）な方法（ほうほう）であるだけでなく、生命（せいめい）と福（ふく）に属（ぞく）した考（かんが）えを植（う）えて位置（いち）づけるにも卓越（たくえつ）した方法（ほうほう）です。 第（だい）二（に）に、どのような言葉（ことば）を発（はっ）するのかを慎重（しんちょう）に選択（せんたく）しなければなりません。 人（ひと）の言葉（ことば）は一生（いっしょう）を左右（さゆう）するほど重大（じゅうだい）で決定（けってい）的（てき）な影響（えいきょう）を及（およ）ぼします。聖書（せいしょ）は言葉（ことば）が及（およ）ぼす影響（えいきょう）と結果（けっか）について強調（きょうちょう）しています。神（かみ）様（さま）が人（ひと）をやっていて人（ひと）の言葉（ことば）に大（おお）きな権勢（けんせい）をくれたからです。そして神（かみ）様（さま）が私（わたし）たちの言葉（ことば）を通（つう）じて仕事（しごと）をされるからです。考（かんが）えと言葉（ことば）には生命（せいめい）と福（ふく）に属（ぞく）することと死亡（しぼう）と呪（のろ）いに属（ぞく）したのがあります。互（たが）いが今日（きょう）はどこに属（ぞく）した考（かんが）えと言葉（ことば）を選択（せんたく）するのかによって明日（あした）にその結果（けっか）を見（み）るようになります。気（き）に抱（いだ）く思（おも）いと口（くち）から出（で）てくる言葉（ことば）は、まるで農夫（のうふ）が種（しゅ）を畑（はたけ）に植（う）えるのと同（おな）じく、時（とき）がくればその実（み）を結（むす）ぶようになることです。生命（せいめい）と福（ふく）に関（かん）する言葉（ことば）だけ選択（せんたく）して使用（しよう）することに決（き）めて練習（れんしゅう）して習慣（しゅうかん）にしなければなりません。これは敬虔（けいけん）に属（ぞく）した練習（れんしゅう）です。
第（だい）三（さん）に、どのような信頼（しんらい）を持（も）っていくのかを慎重（しんちょう）に選択（せんたく）しなければなりません。否定（ひてい）的（てき）性格（せいかく）の信頼（しんらい）がいて肯定（こうてい）的（てき）性格（せいかく）の信頼（しんらい）があります。神（かみ）様（さま）を喜（よろこ）ば呼（よ）び立（た）てしている信念（しんねん）があり、神（かみ）様（さま）に反（はん）する信仰（しんこう）があります。偶像（ぐうぞう）に対（たい）する信頼（しんらい）は神（かみ）様（さま）が憎らしく思（おも）っている信頼（しんらい）です。私（わたし）たちは生命（せいめい）と福（ふく）に属（ぞく）した信頼（しんらい）を持（も）つ必要（ひつよう）があります。まず、真（しん）の神（かみ）を信（しん）じている信念（しんねん）を持（も）たなければなりません、イエス・キリストの神（かみ）様（さま）を信（しん）じることに選択（せんたく）した人（ひと）は彼（かれ）の生涯（しょうがい）で最高（さいこう）の選択（せんたく）をした人（ひと）です。次（つぎ）に、神（かみ）様（さま）の言葉（ことば）を信（しん）じる方（かた）を選択（せんたく）してください。ヨシュアはガルレプとともに現実（げんじつ）より神（かみ）様（さま）の口（くち）約束（やくそく）を信（しん）じる方（かた）を選択（せんたく）しました。ヨシュアは指導（しどう）者（しゃ）になってイスラエルの民（みん）をカナンの地（ち）に導（みちび）いた後（あと）百（ひゃく）十（じゅう）歳（さい）でこの世（よ）を去（さ）った。神（かみ）様（さま）は間違（まちが）った信念（しんねん）を持（も）ったイスラエルの民（みん）は広野（ひろの）で彷徨（ほうこう）するように放置（ほうち）しました。何事（なにごと）にもヨシュアは信（しん）じることでおこないました。その信頼（しんらい）の基準（きじゅん）は明確（めいかく）し、いっそうのようでした、エホバの神（かみ）様（さま）だけ奉仕（ほうし）して神（かみ）様（さま）の言葉（ことば）を信（しん）じ、神（かみ）様（さま）を親しくすることです。 皆（みんな）さんは何（なに）を考（かんが）えてどのような事（こと）を述（の）べて、どんな信念（しんねん）を持（も）つかを慎重（しんちょう）に選択（せんたく）してください。選択（せんたく）は自由（じゆう）だが、その選択（せんたく）の結果（けっか）は皆（みんな）さんの責任（せきにん）です。聖書（せいしょ）に基（もと）づいて聖書（せいしょ）に合致（がっち）される考（かんが）えと言葉（ことば）と信頼（しんらい）を選択（せんたく）することより、賢（かしこ）くて立派（りっぱ）な選択（せんたく）はありません。その結果（けっか）は生命（せいめい）と福（ふく）です。神（かみ）様（さま）がこれを保証（ほしょう）してくれます。

「チョヨンモク牧師先生の信仰コラム‘緑の牧場、清い川’本の語り中」

とげのあるむちを蹴らないためには

恵みと真理教会 **チョヨンモク** 牧師

ユダヤ人サウロはユダヤ教の一分派であるパリサイ派に属した人でした．パリサイ派の人々をパリサイ人と呼びました．パリサイ人たちは聖書の律法を厳格に守ったし宗教的な慣習と伝統まで守りながら伝授しました．サウロは熱心を出してキリスチャンたちを迫害を加えました．彼は基督教会を完全に破壊しようと決心しました．初代教会の動き手であるステバノを宗教裁判に回付して殺す事に加わりました．エルサレムに居住するキリスチャンたちを探し出して監獄に越す仕事もしました．キリスト教が拡散することをはばむために外国で逃避したキリスチャンたちまで逮捕して来ようと思いました．当時にユダヤ人たちに最高の中央裁判所としての権威を持った機関はサンヘドリンでした．サウロはサンヘドリンから逮捕令状を受けてダマスコを向けて行きました．その所にいるキリスチャンたちをしばり上げてエルサレムでひいて来て刑罰受けるようにしようと連れ人たちを連れて出ました．

サウロと仲間がダマスコに身近に至るようになった時太陽は中天にあったし日の光がひしと照り付けていました．ちょうどその時忽然と正午の太陽光を顔負けにさせる大きい光が彼らをかけて照らしました．その光に圧倒されて皆が地に倒れましたヘブル語で **″わたしたちはみな地に倒れましたが、その時ヘブル語でわたしにこう呼びかける声を聞きました、『サウロ、サウロ、なぜわたしを迫害するのか。とげのあるむちをければ傷を負うだけである』。″(行 26:14)**でおっしゃる音声がサウロに聞こえました．サウロはその音声で神様の威厳と権勢と光栄を感じました．そしてサウロが質問するのを ″神様，どなたですか?″したら，″私はあなたが逼迫するイエスだ.″と答えました．この音声を聞く瞬間サウロは驚いて倒れました．神様の光栄がとどまているその所に現われた方が今まで彼が迫害を加えた人々が仕えるキリストという事実に大きい衝撃を受けました．自分は基督教会と聖徒たちを迫害を加えるのが神様を仕える事だと判断してその事に専心全力しました．ところで今まで 自分 が力をつくして行ったことが “とげのあるむちをければ傷を負うだけである無分別で愚鈍な行為だったという事実にひどい衝撃を受けました.とげのあるむちというのは農業師が牛をやしなう時使う棒で 2 メートルほどの棒で鉄のとげになった唾ができておきました．この棒は農業師自分が願う方向に牛を駆って行こうと思う時使いました．こっそり突けば苦痛を免れようとすぐ方向を変えるようになるのです．しかし押しが強くて愚鈍な牛は方向を変えないでとげのあるむちをければ傷を負うだけである．そんなにすれば極甚な苦痛にあうようになります．

サウロが基督教会を破壊して聖徒たちを迫害を加えるようになったわけは聖書に啓示されている罪の赦し事と救援に関する真理が間違って分かったからです．

彼は人が罪の赦しと救援を得ようとすれば律法を徹底的に守らなければならない事で信じていました．神様がモセを通じて律法をくださった目的を彼が誤解したのです．律法をくださった目的は**第一に**神様が選んだ民たちが偶像崇拝を排撃して唯一な創造主の神様を仕えるようにするためだからです．**二番目で**罪が何やら明らかに現わすためなのです．**三番目で**人は誰も律法が要求したすべてを守って行うことができないということが分かるようにするためなのです．だから自分の努力と行為では救援をもらうことができないことを悟るようにするためなのです．**四番目で**人々をイエスキリストに進むようにするためなのです．罪人を救援しようと世の中へいらっしゃってあがないの死を死んで復活したイエスキリストを信じて迎接するように導くためなのです．サウロはパリサイ人として自分が **“熱心の点では教会の迫害者、律法の義については落ち度のない者である。”(ピリピ人への手紙 3:6)**と言いました．そうするうちに今になってイエス様が救世主という事実が分かるようになると初めて律法の役目を正確に分かる事になりました．律法の役目を分かってみれば律法は罪が何やら分かるようにしてくれる善良で美しいことだがその律法が人を義のあるようにすることができないということを悟りました．人が律法を守って義のあるようになるのではなくイエスキリストを信じて義のあるようになって救援を得るという真理を確かに分かるようになりました．

当時のユダヤ人たちは二つの名前を持っている場合が多かったです．サウロはヘブライ語の名前でパウロはヘルラオの名前です．ここでパウロという名前を使うようにします．パウロはイエス様を自分の神様で迎接するようになったその日からとげのあるむちを蹴る無益で愚鈍な行動を止めるようになりました．パウロは神様の光栄と権能の臨在の中現われた方を向けて “神様，どなたですか?” という質問をしたし まもなくで “私はあなたが逼迫するイエスだ.” という返事を聞くようになりました．するとパウロは即時 “神様，私が何をしなければなりませんか?” と質問しました．ダマスコ道の上の体験以前のパウロは何でも自分が願って正しいと思いながら行動しました．自分の判断がいつも正確だと自信しました．ところで神様が誰かが分かるようになると彼の生の方法が完全に変わりました．“神様私が何をしなければなりませんか?” と問いました．神様が彼に “ダマスコに入って行きなさい.” そのようにおっしゃいました．彼はその後にダマスコに入って行きました．その日から彼は一生の間 “神様，私が何をしましょうか?” という質問をしながら暮しました．イエス様を神様で仕える人は神様のみ旨を分別しようと努力するのが正常です．**ローマ人への手紙 12 章 1 節，2 節に “兄弟たちよ。そういうわけで、神のあわれみによってあなたがたに勧める。あなたがたのからだを、神に喜ばれる、生きた、聖なる供え物としてささげなさい。それが、あなたがたのなすべき霊的な礼拝である。あなたがたは、この世と妥協してはならない。むしろ、心を新たにすることによって、造りかえられ、何が神の御旨であるか、何が善であって、神に喜ばれ、かつ全きことであるかを、わきまえ知るべきである。”** しました．神様のみ旨が分かるために聖書を読んで黙想しなければなりません．礼拝時に説教に耳を傾けなければなりません．

パウロは傳道の旅行をしながら聖霊様の引導を注意深く察しました．聖霊がアジアで言葉を伝えることができないようにしました．**それから彼らは、アジヤで御言を語ることを聖霊に禁じられたので、フルギヤ・ガラテヤ地方をとおって行った。**
そして、ムシヤのあたりにきてから、ビテニヤに進んで行こうとしたところ、イエスの御霊がこれを許さなかった。それで、ムシヤを通過して、トロアスに下って行った。ここで夜、パウロは一つの幻を見た。ひとりのマケドニヤ人が立って、「マケドニヤに渡ってきて、わたしたちを助けて下さい」と、彼に懇願するのであった。パウロがこの幻を見た時、これは彼らに福音を伝えるために、神がわたしたちをお招きになったのだと確信して、わたしたちは、ただちにマケドニヤに渡って行くことにした。(使徒行伝 16:6～10)．このように彼は福音を伝える事が善良な事で，どの所へ行って誰に会って伝えても良いことだがそれまででも聖霊様の引導が分かるために鋭敏に察しました．

とげのあるむちを蹴れば傷を負うだけである仕事がないようにするためには自分を否認と自分の十字架を負って神様に従わなければなりません．イエスキリストが十字架を負う時が身近に来た時前に起こる事を弟子たちに予告しました．**“この時から、イエス・キリストは、自分が必ずエルサレムに行き、長老、祭司長、律法学者たちから多くの苦しみを受け、殺され、そして三日目によみがえるべきことを、弟子たちに示しはじめられた。すると、ペテロはイエスをわきへ引き寄せて、いさめはじめ、「主よ、とんでもないことです。そんなことがあるはずはございません」と言った。イエスは振り向いて、ペテロに言われた、「サタンよ、引きさがれ。わたしの邪魔をする者だ。あなたは神のことを思わないで、人のことを思っている」。それからイエスは弟子たちに言われた、「だれでもわたしについてきたいと思うなら、自分を捨て、自分の十字架を負うて、わたしに従ってきなさい。(マタイによる福音書 16:21～24)** しました．イエス様の予告したお話が自分気に入らなくてもないです，だめだと引き止めてはいけないです．自分の意見，自分の主張，自分の欲心を十字架に釘を打たなければなりません．十字架は死刑の器具です．だから自分の十字架を負いなさいということは自分の固執，自分の主張をつぶしてしまいなさいというのです．それで自分を否認と自分の十字架を負いなさいとおっしゃったのです．イエス様を神様だと呼ぶ人は自分を否認して自分の十字架を負わなければなりません．そんなにすればこそ神様に完全に従うことができます．

パウロはイエス様が神様であることが分かるようになったその日から自分を否認してすべての主導権をイエス様に差し上げました．**ガラテヤ人への手紙 2章 20 節に “生きているのは、もはや、わたしではない。キリストが、わたしのうちに生きておられるのである。しかし、わたしがいま肉にあって生きているのは、わたしを愛し、わたしのためにご自身をささげられた神の御子を信じる信仰によって、生きているのである。”** 言いました．聖徒の皆さんはイエス様を神様で信じるのみならず “神様私が何をしなければなりませんか?” と問って神様のみ旨と指示どおり行うために自分を否認して自分の十字架を負って神様を仕えてください．そしてとげのあるむちを蹴らないためには無益で愚鈍な事を行わないで皆さん一生が価値あって聖なる栄え栄えしくなるようにお願いします．